

平成24年度

施策評価マネジメントシート(平成23年度の実績評価)

記入年月日

平成 24 年 7 月 3 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	土生都 信輔
303	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	見込値	人				45,122	44,571	44,020	43,469	42,920
実績値					46,575	45,673	45,105					
②青少年人口		見込値	人									
		実績値			8,865	8,362	8,153					
		見込値										
		実績値										
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	心豊かにたくましく育つ	①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	%	目標値			45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
実績値				—	47.6	49.0						
②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数		人	目標値			600	600	600	600	600	600	
		実績値		780	601	507						
		目標値										
		実績値										
成果指標設定の考え方	<p>○健全に生活でき親子のコミュニケーションがとれていれば心豊かにたくましく育っていると考え、アンケート調査の(中学生までの子供を持つ保護者)「家庭において、お子さんと、どの程度の会話をしていますか。」において「悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合」で把握する。</p> <p>○心豊かにたくましく育ってもらうためには、地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数(自分の子ども以外を指導育成しているかどうか)、青少年が参加した活動の参加人数の割合で把握する。保護者世代に対する意識をもってもらう取り組み。</p>											
成果指標の把握方法と算定式等	<p>○市民の未成年者(20歳未満の市民)は、各年4月1日の住民基本台帳による</p> <p>○地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、社会環境浄化活動等の参加人数の割合(保護者世代に対する意識をもってもらう取り組み)。</p>											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○「地域の子供は地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、地域全体で青少年の健全育成を図る。	2) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活できる環境を創造する。
状況変化	3) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○少子高齢化にともない、地区単位で行っていたものが、市単位で実施することになりかねない。しかし、市単位でやると参加者が制約される。底辺の活動が停滞する可能性が高い。青少年の主張大会などは市で実施してもよいが、体験学習など実際の活動は地区で実施したほうがよい。地域意識が希薄になっている。 ○子どもが参加しやすくなるのが良い。底辺拡大。 ○地区により行政がやるもの市民会議がやるものと差がある。 ○取り組む事業は地域の特性に合わせて行うことが理想。取り組みを継続していくことが重要。	4) この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○立志の集い。(真壁地区、市民会議で実施していた。)岩瀬・大和地区(行政の補助金で実施していた。)運営方針や体制を統一してほしいという要望があった。 ○市民会議の執行体制を統一してほしいとの意見もある。 ○子どもに不便さを体験させたいという意見がある。(野外体験などを実施している。) ○三世代の集いを復活させてほしいという意見もある。(コミュニティストール事業と連携するとよい結果が出た。) ○高齢者と子どもたちのふれあう場を企画実施してほしい。との意見がある。 ○小中学生と高校生の交流を図るべきとの意見がある

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 青少年活動の充実	青少年	生きる力を身につける	①体験教室の開催回数	実績値	60	56					
			②体験教室への参加延べ人数	実績値	2,130	2,766					
② 家庭教育の充実	青少年の保護者	家庭での教育力を高める	家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	%	47.6	49.0					
③ 地域教育力の充実	地域住民	地域の教育力を高める	地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	実績値	601	507					
④				人							
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	18		19
②施策事業費(一般財源以外)	千円	486	558	581
③施策事業費(一般財源)	千円	3,489	4,790	4,596
④施策事業費の計(②+③)	千円	3,975	5,348	5,177
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	3,800	9,197	7,674
⑥ 計 (④+⑤)	千円	7,775	14,545	12,851

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	コミュニティストール事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位
事務事業	子どもチャレンジ塾事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位
事務事業	市子ども会育成連合会運営助成事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位
事務事業	青少年育成桜川市民会議運営事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位

施策番号	303	施策名	青少年の健全育成	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、22年度47.6%、23年度49.0%と上昇した。 ・青少年相談員が青少年が多く集まる市内で行われる祭事等で積極的な巡回指導、「青少年の健全育成に協力する店」等訪問・登録促進活動を実施。巡回指導を実施した回数は、19年度 5回、20年度 7回、21年度は8回、22年度は8回、23年度は8回実施。積極的な活動で指導の事例、また、問題はない。 ・地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、青少年育成桜川市民会議を中心に実施して青少年のための社会環境浄化活動の参加人数である。19年度は500人、20年度は777人、21年度は780人、22年度は601人、23年度は507人で、ここ数年減少している。開催時期により、児童・生徒の参加者が大きく変動することがあるが、一般市民の参加者が減少していることから、青少年の健全育成のための環境浄化に対する市民の関心の低さが伺われる。しかし、長年の活動により、捨て看板等の設置が激減した。 ・活動をすると、活動に参加してもらうことにより、問題は発生していない。成果が維持されていると考えられる。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、23年度目標値45.0%に対し49.0%と4ポイント上回った。 ②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、23年度目標値600人に対し507人と93人下回った。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・桜川市の青少年の健全育成事業は県内でも先進的であり、多くの事業に取り組んでいる地区である。しかし、県西地域の市町村では街頭でのあいさつ運動や役員の視察研修会等を実施している程度であり、比較対照する指標はない。 ・桜川市は青少年健全に対する取組みを早期に着手してきたことから、後発団体よりもノウハウも蓄積されている。 ・あいさつ声かけ運動にあっては、青少年育成市民会議メンバーが地域(学校)に入って取り組んでいる。他団体では事例は少ない。 ・立志の集いを実施しているが、他団体では少数でしか実施していない。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・青少年の健全育成事業に市内の全120行政区が取り組んでいることから、住民が期待する青少年の健全育成に対する期待の大きさが伺われる。住民が期待する水準が不明確なところもあり、相談員が巡回指導した回数や育成事業への参加人数等で判断しがたいものがある。 ・総合計画後期計画の策定時におけるアンケート調査では、この施策における住民の優先度は低く、満足度は平均よりやや高く、現状維持項目である。結果、青少年健全育成活動を地道ではあるが継続的に行っていくことが必要である。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>23年度においては、青少年に対し、「生きる力を身につける」を目標に重点的に取り組んだ。 ・事務事業貢献度評価結果から、具体的に施策の成果向上に貢献したおもな事業は、「わくわくサタデーふれあい事業」「子どもチャレンジ塾事業」「コミュニティスクール事業」「放課後子どもプラン推進事業」「放課後子ども教室」が貢献した。 ・「わくわくサタデーふれあい事業」は、岩瀬中央公民館を中心に、伝統芸能の継承を図るために、藍染め体験教室、絵手紙で心を伝えよう、手作りソーセージ体験、様々なゲーム等を実施したチャレンジ大会等に取り組む、144名の参加があった。 ・「子どもチャレンジ塾事業」は、大和中央公民館を中心に、オカリナ教室・自然観察・おもしろ理科教室・食べ物づくり教室の4つのコースを3回から5回を実施し、449名の参加を得た。 ・「コミュニティスクール事業」は、「ひな人形を探そうオリエンタリング」・学校内を流れる川に放流された「アユのつかみ取り」・地域の三、四世代が一同に会し分館祭と合同で実施した「秋を楽しむ会」・地域の方々に日頃の協力にしてお礼として、学習の成果を発表した「ありがとう集会」等真壁地区小学校毎に3回実施し、1,636名の参加があった。 ・「放課後子どもプラン推進事業」「放課後子ども教室」は、毎月第1・3木曜日に、樺徳小学校の空き教室を利用し、工作・ダンスやゲーム等によって放課後の児童の居場所作りと生きる力を得るための体験学習を実施し、延べ参加人数は563名であった。 その他の事務事業では、児童が慣れ親しんだ学校を離れて、地域ごとに組織された子ども会においては、残念ながら雨天により中止にはなりましたが、学年を超えて一つのスポーツに親しむ「子ども足球大会」や、霞ヶ浦湖上クルーズや水質検査・環境関連施設の見学を通して「生活に欠かせない水」に関して学ぶ「桜っ子探検隊」を実施した。 ・「青少年相談員運営事業」は、「青少年の健全育成に協力する店」の各店舗を訪問し登録活動・社会浄化活動参加・街頭指導活動・各種研修会を実施し、指導者としての質の向上を高めた。 ・「青少年のための環境整備事業」は、違法看板の撤去・通学路の安全確認・美化活動(ごみ・空き缶拾い)を実施した。 ・「青少年育成桜川市民会議運営助成事業」は、社会浄化活動の主催で、青少年の主張・善行者表彰・指導者研修を実施し、各支部においても、きめ細やかな活動を行った。 ・「市子供会育成会連合会助成事業」は、夏休みの球技大会・美化運動を兼ねた桜っ子探検隊を実施した。 ・県第8ブロック青少年相談員連絡協議会参画事業では、青少年の社会力～地域のかかわりが鍵と題した研修会を受け、地域での役割について再確認を行い地域活動に取り組んだ。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)	
施策全体	<p>・青少年が抱える問題は年々深刻化しており、学校と家庭と地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに手本となる親や大人の自覚など意識を高めていく必要がある。</p>	<p>・学校、家庭、地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる保護者や地域住民の自覚など意識啓発に努めます。 ・子どもがたくましく伸び伸びと生活できるよう、地域の子どものみは地域で育てる環境を形成し、地域住民の連帯意識を高め、世代間交流等による地域社会の活性化を図ります。</p>	
基本事業	①青少年活動の充実	<p>多くの参加者を募るためのPR活動が必要となってくる。関係機関との連携を密にして、必要に応じて青少年及び家庭を指導する。各種事業を通じて、青少年の健全育成の啓発活動を推進する。</p>	<p>多彩な地域活動やボランティア活動など、「見て・聞いて・体験して感動できる」活動を充実させ、これら豊かな体験をおとし、子ども達の「生きる力」を育みます。</p>
	②家庭教育の充実	<p>学校と家庭と地域の連携強化を図る事が必要と思われる。親子で参加できる「あいさつ運動」「社会環境浄化運動」等に取り組んでいるが、運動の趣旨の浸透が図られず、参加者数が伸び悩んでいる。とくに、問題があると認められる家庭や小学生などの参加が少ない。無関心である。</p>	<p>家庭は、家族の暖かい人間関係を通じて子ども達が基本的な規範意識や生活習慣を学ぶ人間形成の場として極めて重要であることから、学校等と連携しPTA活動や家庭教育学級を通じて、「子どもの見本となる保護者意識」を高める相談・支援体制を充実し、ふれあいのある家庭づくりを推進します。</p>
	③地域教育力の充実	<p>青少年の健全育成はすべての市民の願いであり、使命でもある。青少年の人格形成には、日常生活における親や大人の子供に対する関わりが大きく影響することから、親や大人がなお一層の自覚を促進し、青少年のよい手本となるよう、関係団体と連携をはかっていくことが重要である。</p>	<p>地域コミュニティの地縁の結びつきをベースとして、社会環境浄化活動や地域防犯(見守り活動)及び地域の伝統行事などを通して、異世代間の交流事業を図り、「地域の子どものみは地域で育てる」という意識を啓発します。</p>